

# 勉強したくないなら資格を取れ！

## 『宮城県の高校入試制度』

2022年も半分が終わり、運動部は部活もひと段落。受験生は、夏休みに向けて学習環境を整えたり進路選択をしたりと、受験を見据えた準備を始める時期になりました。とはいえ、「勉強は大変だし面倒」「出来ることならしたくない」と考える人も少なくないでしょう。極端に言えば、勉強せずに入試を突破できる方法があればどんなに楽でしょうか。

宮城県の高校入試制度には、“共通選抜”と“特色選抜”が存在します。“共通選抜”が従来通り試験当日のペーパーテストの点数のみで合否判定が行われるのに対し、“特色選抜”では、ペーパーテストの点数に加え、これまでに得た実績や資格など、調査書に基づいた評価も合わせた合否判定が行われます。

つまり、共通選抜ではなく特色選抜において、他の受験生にはない『特色』『特長』を持つことが出来れば、合格に限りなく近づけるといえるわけです。この制度、使わない手は無いですよね？

## 『コロナ禍を経て』

これまでの2年間は、新型コロナウイルスの影響により、様々な活動の自粛・制限を余儀なくされ、大会やイベントは中止、学校行事も規模を縮小するなど、学生が『特色』『特長』を作る機会の多くを奪われてきました。そんな学生の皆さん、今の自分の『特色』『特長』はありますか？証明できるもの、持っていますか？

この夏、新型コロナウイルスの影響は再び大きくなると予想されます。これまでの2年間同様、『特色』『特長』を作る機会は多くありません。では、どのようにして『特色』『特長』を作るのか。そこで使えるのが『資格』です。

検定資格も立派な『特色』『特長』になります。どの分野でどれだけのレベルに達しているのかを、“全国基準”の指標で判断してもらうことができ、取得すれば一生失うことがないのが『資格』です。

「検定資格を取れ」と言われても、「今の学年のレベルじゃなければ意味がない」と思っていないですか？

結論から言うと、それらの考えは一切不要です。

高校受験において、検定資格は『特色』『特長』です。つまり、「周りと比べて自分はこれだけの能力を持っています」ということを示せばいいのです。例えば、クラス40人の内、35人が同じ検定資格を持っている場合は、その35人の中から選んでもらう必要がありますから、周りよりも高いレベルの資格を持っていることが必要です。しかし、クラス40人の内、自分一人しか資格をもっていない場合はどうでしょう。その時点で既に周りとは違う『特色』『特長』を持っているといえませんか？

## 『スポーツと学力』

将来・進路達成だけでなく、スポーツにおいても、“アタマ”を使うことでさらなる活躍に繋がります。スポーツには必ず対戦相手があります。相手を分析し、相手を困らせることができれば、勝利は近づきます。そのためには、試合中でも「考えられる力」が必要です。

「考えられる力」を養う練習は、普段の勉強が有効です。「目の前の問題を解決するためにはどうしたら良いか」、「出題者はどんな答えを求めているのか」、「答えにたどり着くためにはどんな方法があるか」。普段の勉強で“対策を考える”ことがそのままスポーツに置き換えて「考えてみる」ことにつながり、より素晴らしいスポーツ選手になれるはずですよ。

## 『目標・将来と選択肢』

進学をはじめ、自分の将来や目標・夢について考えると思いますが、「特にやりたいこともないなあ」「見つからない」というのも普通のこと。「夢を持って」「目標を持って生きなさい」ということを言われたりもしますが、「そうは言われても...」というのが本音です。

目標・目的・夢。特に無いという人は、まだ決まっていなくてもいいと思います。簡単に決められるものではないし、その場でなんとなく決めたことをずっと続けるのも難しいですよ。

かと言って、目標・目的・夢がなくてもいいのかというとそうではありません。これから先、やりたいこと、やってみたいことは必ず見つかります。その時、やりたくてもできないというのはもったいないですよ。将来のやりたいことのためには、今の選択肢を狭めないように進路を選択していく必要があります。

例えば、「特にやりたいこともないなあ」という人が、そのまま工業系の高校、大学と進んでしまった後で、「違うことをやりたい！」となったとき、進路を変えるのはなかなか大変です。いつでもどんな選択肢も取れるように、分野・ジャンル・級にこだわらず資格を持っていることで、途中でやりたいことが見つかったり変わったりしても、挑戦できます。

より多くの選択肢を得るためには、より高いレベルの学力も必要になってきます。大学を卒業しなければならぬ職業、より専門的な知識や技術が要求される職業、などなど、上を見ればキリがありません。それでも、できるだけ多くの選択肢を得るためには、検定資格をはじめ、今のうちに学力を高め、証明できるものを増やすことで、将来やりたいことを見つけた自分が全力でそれに打ち込むことが出来る。と考えてみませんか？

## ひとくちからふる

### 『社会で求められる数学・理科の力』

仕事のAI化、リモートワークなど、通信技術の発展や技術革新によって、日本だけでなく世界中が大きな進化を遂げようとしている今、社会で求められるのはどのような力を持つ人材でしょうか？

文部科学省、経済産業省は、『数理資本主義』という言葉と共に、今の社会での“数学”、“理科”の重要性、『理数系人材』を求める社会の動きについて分析、提言しています。

また、理系・文系に寄らず、数学の力が重要であることは、様々な大学の入試科目にも表れていて、早稲田大学をはじめ、文系学部の入試科目に数学を追加する動きが見られます。

しかし今、“理数嫌い”の学生は少なくなく、社会問題としても取り上げられています。社会が理数の力を求める一方で、教育現場では理数の力が伸びていないのが現状。このままでは、技術革新が見込めない、発展性のない社会になってしまいます。

そんな中、学生の皆さんが“今”できることはなんなのでしょうか？“勉強”はもちろん続けてほしいですが、「自分がどれだけできるのか」を『証明』するものが大切です。学歴や学校レベルに左右されない、全国基準で評価される『資格』を持ち、客観的に実力を評価してもらえるものを持つておくことが必要な時代が目の前にあります。

経済産業省  
数理資本主義の時代  
～数学パワーが世界を変える～

